

## 世界のソーシャル・ビジネス

アジア・オセアニア編  
ニュージーランド空腹の子どもに  
ヘルシーなランチを

「空腹だった子どもたちが授業に集中できるよ  
うになり、笑顔を取り戻した」。これは、無  
償提供されたランチで満腹になった教え子を持  
つ小学校教諭からの感謝の手紙だ。ニュージー  
ランドでは、4人に1人が貧困線を下回る生活  
を強いられるなか、イート・マイ・ランチ社は  
「ワン・フォー・ワン」モデルで、サンドイッチ  
や野菜スティックなどの健康的な食事を貧困層  
の子どもたちに提供している。



ヘルシーなお弁当は空腹を満たすだけでなく、新鮮で栄養価の高い食事をとることの重要性を子どもたちに教えている

ニュージーランドの学校では  
は昼食はお弁当が一般的だ。  
しかし、貧困層の子どもは朝  
食も昼食も食べず、空腹で学  
校生活を送る。労働党、グ  
リーン党は、こうした子ども  
を助ける法案を各々提出した  
が、2015年初めに廃案に  
なってしまった。政府は、す  
でに朝食無料配布サービスが  
あり、貧困層の子どもは少数  
だからと主張している。

子どもは、政府の援助が期待でき  
ないなかで、北島のオーク  
ランド市内でランチのオンラ  
イン・オーダー・サービスを  
行っているイート・マイ・ラン  
チ社のシンプルで的を射た取  
り組みに多くの支持が集まっ  
ている。

「バイ・ワン、ギブ・ワン」は、  
同社のお弁当を10NZドル(約  
800円)で購入すると、自  
分だけでなく、子ども一人に  
ヘルシーなお弁当が提供され  
るというプログラム。10NZ  
ドルでお弁当の材料費、運搬費、  
包装費がまかなわれ、お弁当

作りはボランティアが担当し  
ている。

無料のお弁当は学校単位で  
配られる。イート・マイ・ラン  
チが教育省の資料からそれを  
必要としそうな学校を割り出  
し、アプローチ。学校側から  
連絡することも可能だ。双方  
が合意すれば、配布の開始だ。

## 4カ月半で6千食を配布

創業者は、チョコレートな  
どの「健康的ではない」食品  
を製造・販売する大手企業に  
長年勤務してきたリサ・キン  
グさんとイアン・ブキャナン  
さん。キャリアをふり返り、  
自分の国で今、子どもが貧困  
や肥満問題に直面している事  
実に駆り立てられ、イート・  
マイ・ランチを創業した。そ  
こにリサさんの友人で、自ら  
も貧しい家庭に育った名シェ  
フ、マイケル・メレディスさん  
が加わった。

手を貸そうというボラン  
ティアは引きも切らず、おも  
ちゃブランド、自動車メー  
カー、カフェなど多くの企業  
も協力を惜しまない。例えば、

リサさん(右)とマイケルさん。マイケ  
ルさんは高校中退後、インターンとし  
て入った店で才能を開花させた



自動車ブランドのミニは、運  
搬用車両を提供している。

創業からわずか4カ月半で  
25校に6千食ものランチを配  
布した。

2016年からは、クラウ  
ドファンディングで資金調達  
した約13万NZドル(約  
1043万円)を使い、本格  
的な厨房で弁当作りを開始す  
る予定だ。その後は恵まれな  
い子どもたちの将来を考え、  
栄養バランスのとれた食事の  
大切さを教えるための料理教  
室を開くことを目指している。

(ニュージーランド)  
クロード・ディア・真理